

22th 全国曹洞宗青年会

SOUSEI

180
2018.02

特集 禅とRunning

ランニング
— 走道sodo —



柔道・茶道・剣道などに代表される「道」という思想は「他者を尊重すること」を重んじます。そして、古くから我々の心を豊かに育ててきたその思想の根源には「禅」があります。今号では、過酷な練習と禁欲的な競技イメージから「修行のよう」と評されることもある長距離走に注目し、走る行為の中に「禅」は見いだせるのか、「走道」とでもいうべき精神世界を見いだせるのかをテーマとし、広報委員会の2名が駒澤大学陸上競技部の名将・大八木弘明監督を訪ねました。その後、監督からいただいたお話の実践の場として『第3回峨山道トレイルラン』に参加し、走る行為からもたらされるものを自分の身心で検証する体当たり取材を敢行いたしました。

特集

禅

と

Running

ランニング

— 走道sodo —



駒澤大学陸上競技部 大八木弘明監督インタビュー



禅修行は日々の行持の繰り返しと、僧堂での集団生活が特徴です。競技に全力で取り組み、集団生活を送る方々の暮らしには「禅」の精神が生かされているに違いないと思います。駒澤大学陸上競技部が生活する「道環寮」を訪ねました。第29回出雲全日本大学選抜駅伝競争を終えたばかりでお疲れのところ、笑顔で迎えてくれました。

インタビュー／本日はお時間をいただき、監督から走ること「禅」の関係についてお聞かせいただきたいと思えます。

駒澤大学陸上競技部の歴史を見ると、監督が選手として駒澤に入られてから飛躍的に成績が伸びています。監督がプレーイン・グマネージャーをしていた時から作り上げてきた有形無形の伝統、雰囲気、練習メニューなどの中で、特に精神修養の面で何か特別に行われていることはあるでしょうか。

大八木／私が入った時の駒澤はエリート集団ではなく、強い選手が入ってくるというところでもありませんでした。そこでどうやったら強くなるか考えてみると、生活を整える、規則正しい生活を送ることが大事、という結論に行き着きました。「禅」で言えば、修行僧のような生活をするということですね。朝の何時に起きる、かつ使用したグラウンドは綺麗にする、そういったことです。生活を整える、規則正しい生活を送

るということは、まさに強くなることに直結します。だらしない生活を送ることがなぜダメかというと、そこに甘さが生じてしまうからです。このくらいだったらいいや、このくらいなら楽してもいいや、そんな生活の積み重ねが、試合で、このくらい前を行く選手と差が開いてもいいや、という発想に繋がってしまいます。

駅伝はたすきを渡すスポーツです。たすきを渡す先、つまり次の選手のことを考えなくてはなりません。次の選手が少しでも楽になるよう、少しでも有利になるよう、自らには厳しくする。詰めが肝心なんです。その詰めに甘さが生じてしまうようでは、駅伝をする上で大問題です。試合に必要な内面の厳しさを鍛えるため、普段の生活においても厳しさが必要なのです。

そのためにどんなことをしていますか。

大八木／陸上競技部では朝の練習の後、グラウンドを綺麗に整備するようにしていま

す。グラウンドは自分たちだけのものではなく、大学全体のものであり、他の生徒も使うものです。その人たちのことも考えずに汚く使ってしまうと、なんだ陸上競技部というのはこんな認識の部なのか、こんな奴らが本当に強いのか。そう思われたらどうする、と部員たちにはよく言っています。そういったことを通じて、他人のことを考える、翻っては次の選手が少しでも楽になるようなすきを渡すことを精神修養として意識しています。

また、上級生が率先してお手本を示すという観点から、寮の内部の掃除、特に玄関を上級生が掃除するようにしています。玄関というのはお客さんに一番見られるところ、とても大事なところですからね。

私は縁あって仏教の大学に入った

その厳しさが必要だという実感は、大八木監督の体験から培われたのでしょうか。

大八木／私は高校時代、かなり勝手なところがありました。その頃の自分は自分さえ良ければいいと思い、他人のことなんか考えていませんでした。縁あって駒澤という仏教系の大学に入学し、仏教の考えに接する中で、まさにその通りだな、生活を正さなくちゃいけないな、自分はこのままではダメだ、と考え直したのです。

また、私は2部でしたので、役所に勤めながら駒澤の夜間部に行き授業を受け、練

習もこなしました。これは大変でした。

一番気をつけたのは時間の使い方です。授業を受け、駅伝の練習をし、それぞれで結果を出すのが当然と考えていましたから、無駄な時間はないわけです。良いパフォーマンスを出すにはどうしたらいいか。そのための時間の使い方をこの時期に覚えたな、と思っています。

「準備」をして 本番の不安を取り除くことが大事

ところで、練習に坐禅を取り入れていらっしゃいますか。

大八木／新人合宿の際には、みんなで坐禅をしていますので、その経験も生かされているかと思えますけどもね。私もやりやすいけども、自分と向き合う為にはとてもいいことだなあ、と思います。無になれるというか。

坐禅に限らず精神修養目的のもので何か行っておられるのでしょうか。

大八木／合宿中は、あえて長く歩いてみることをしていますけどね。2時間、3時間という長さであえて長く歩いていきます。でも日常的に何かをしているわけではないです。

本番の精神を整えるという意味では、準備がそれにあたるのでしょうか。準備という



①廊下には部員それぞれの目標が掲示されている。
②大八木監督が加入して以来、部は飛躍的な成長を遂げた。
③部員とのコミュニケーションの場ともなるサウナ室。

のは大事ですよ。物の準備、体調の準備、そこに行くまでの様々な準備。少しでも不安な気持ちを抱いてスタートすると何か予測できないことが起きますね。靴は事前に何度も履いて確認した方がいいですし、擦れる部分とかはきちんとテーピングをする。準備から全てが始まると思います。常日頃やれたことを本番で行うには、準備が大切なんです。

自分の性格を知り尽くせば 自分を楽しめる

辛くて辞めていく部員に送る言葉はありますか。

大八木／自分の目標を見失うな、ということとです。キチンとした目標設定をクリアするまで、諦めないことを忘れないでほしい。苦しさを我慢できないと逃げます。でも、失敗してみないと成長もできないんです。苦しさを糧にして次につなげていく、そういう人間になってほしいですね。みんな失敗して遠回りしていますから。ああ、自分の弱さはここだな、自分の我慢できないのはここだな、とみんな感じてきているわけですから。

自分で自分の性格を知らない人って、何をやってもダメなのかな、という気がしませんね。短所も長所も自分の中で把握していません。自分の魅力はどこかというの知らない人と人にはそれを見てもらえないです

から。自分で自分を知り尽くせるくらいの人間になれば、自分を楽しめるかな、と思います。

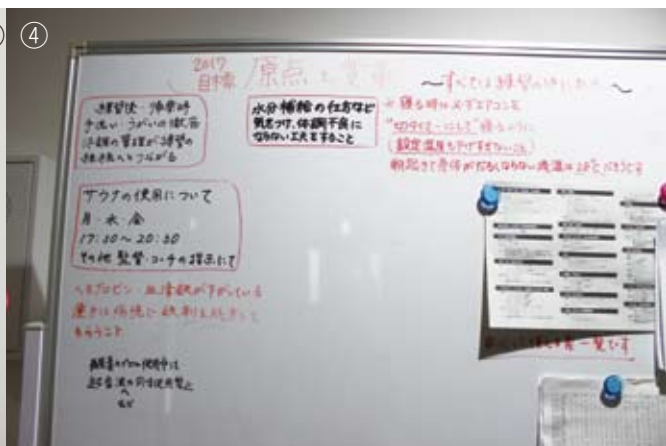
かならず無上の行持あり 道環して断絶せず

最後の質問にさせていたただきたいと思います。この寮の名前の「道環」とは行持道環という言葉からつけられたものです。それについて監督の思うところをお聞かせ願いたいのですが。

大八木／駒澤大学元総長の松田文雄先生が看板の文字を書いて下さいました。「常に初心を忘れない」ということで、ぐるっと回って元のところに戻る、そのことを肝に銘じています。良い時ばかりではない、辛いときのことを忘れずにやっていかななくてはならない。何もならないところからこの寮も始まりましたから。毎年スローガンを作るんですけども、これまで「原点」という言葉を常に使って参りました。今年も「変革」です。選手それぞれが自分の何かを変えて取り組むよう、求めています。

長い時間ありがとうございました。

聞き手／広報委員 田ノ口太悟



④部員に提示するテーマには一貫して「原点」の2文字がある。
⑤寮生活の日常をインスタグラムで発信しています。
⑥大八木監督のインタビューに挑む田ノ口太悟広報委員。



体当たり取材 第3回 峨山道 トレイルラン 体験記

練習を生活の中心に据えつつ共同生活をおくる道環寮の様子からは、僧堂に通じる精神性を随所に感ずることができました。加えて我々が注目したのは、「走っている最中の心は『禅』といえるのか」という点でした。大八木監督へのインタビューを終えた我々はその10日後、自分自身の体で検証するべく、第3回峨山道トレイルランに挑みました。台風21号が迫る中での開催となった大会の様子をお伝えします。

峨山道トレイルランとは

大本山總持寺と永光寺の住職を兼務した峨山禪師は、毎朝未明に永光寺の朝課を勤め、13里(約52km)の山道を越えて、總持寺の朝の読経に向かったと伝えられます。峨山道トレイルランは禪師が駆け抜けた伝説の古道「峨山道」を、その護法の志とご遺徳をしのびつつ走るロングトレイルです。

台風21号が迫る中

今回は永光寺側からのスタートで、大本山總持寺祖院を目指す77kmのコースの予定でしたが、台風21号が接近しており安全面の配慮から後半部をカットした全長50kmの短縮コースとなりました。

10月22日(日)午前4時、出発地点に入ると数人の青年僧侶から声をかけてもらいました。我々を含め9人の僧侶が参加とのこと、この大会ならではの縁の広まりを感じました。5時、振鈴の音を合図に242人が雨の降りしきる暗闇の中を走り出しました。スタートから程なくして集団は山道へ。暗い山中をヘッドライトの光

を頼りに進んで行きます。足を踏み外しかねない箇所ではゆっくり進むため渋滞が起こっており、ふと後続に目をやるとヘッドライトの光が順番を争うことなく縦一列に並んで向かってくるのが見えました。

山道を抜け永光寺に着き、長い階段を登り山門をくぐり、廻廊を駆け上がると曹洞宗の聖地「五老峯」に続く急な石段に到ります。登りきり五老峯の前に着くと参拝する余裕も無のままに峨山道へ。コースは遠く経験することの無いアップダウンの繰り返して、四つん這いで登らなければならぬ斜面も多く、「ここを峨山禪師が往来されたのか」、「護法の一念で歩まれたご苦労の上に私は生きている」といった感慨にふける思いはたちまちに霧散しました。

練習の仕方を間違えた

夏のフルマラソンを3度の完走経験がある筆者は体力にそれなりの自信がありました。トレイルランのことを、「厳しいアップダウンのあるマラソン」と想定して練習を重ねて挑みましたが、峨山道に入ると認識の誤りを嫌という程に味わわれました。これはマラソンの延長ではなく、「走る登山」でした。山登りの練習を積んでいない体で急な斜面をよじ登ることを気が遠くなるほど繰り返して、下りでは泥まみれになっただけで滑り降りる場面もありました。山道なのでマラソンのような沿道の応援もほぼありません。体温を奪い続ける雨の音と、鳥のさえずりが響くのみです。

この大会は強靱な脚力の持ち主が人知れず、静かな山中で己の限界に挑むレース

だったのだ、自分には無理だと認識を改めました。山の中ではリタイアもできません。「とんでもない事に参加してしまった」「痛めている膝はどこまで持っていくだろう」と、不安に支配された精神状態で足を進めました。何度も足を取られ、斜面を駆け落ちながらも30km地点の第2チェックポイントにたどり着きましたが制限時間の6時間に遅れること18分、関門アウトとなりました。完走者は139人、完走率は僅か57%という厳しい大会でした。

参加者同士で助け合う姿も

大変に厳しいレースとなりましたが、トレイルランの精神を感じる様々な場面に出会いました。峨山道には、斜面に長いロープが杭で打ち込まれている箇所が点在しています。先行したランナーがロープの固定されていない端を強く引っ張り、簡易的な手すりとして後続が安全に斜面を横断する手助けをしていました。先行集団がコースを外れかけていると後続が呼び戻し、後ろから速いランナーが迫っているのに気づくと抜かれる側は立ち止まり道を開けるマナーが浸透していました。

筆者の目の前を走っていた方が突然足を滑らせ、コース外に滑落していった際は驚きました。「救助を最優先とする」の原則に従い立ち止まって声をかけ、無事を確認して一緒に走り出しました。助け合っただけでゴールを目指す姿は個の争いであるマラソンと対照的で、苦しみながらも温かな感情に満たされて走っている自分に気づく事がありました。

文／広報副委員長 織田秀道

ランナー interview



峨山道トレイルラン終了後、参加されていた曹洞宗僧侶の皆様
様にレースを振り返ってコメントをいただきました。



・氏名／横山俊頭
・結果／9時間14分9秒
・走る事と「禅」の繋がり／「似て非なるものだと思います」
・コメント／「雨や雪、泥のコンディションでも毎日山を走っていたので悪天候は想定内だったが、標識を見落としミスコース、川への滑落から左腿の肉離れなど予期せぬトラブルに見舞われた。結果、6kmも余計に走り痛恨の約1時間ロス！あわやリタイヤかと思われたが執念で3年連続の完走を果たした。台風のレース、まさに日日是好日！」



・氏名／蔵重宏昭
・結果／30km地点で関門アウト
・走る事と「禅」の繋がり／「ある」
・コメント／「雨降るまだ暗い午前5時スタート。舗装路から山道に入った途端、雨粒と濃霧に遮られ序盤からコースを間違えるアクシデント。ロスタイムを挽回すべく、追い越しを繰り返すこと数度目で、足元をすくわれ派手に転倒負傷、足を引き摺りながら結局時間切れ。その後「何故焦ったか」と後悔の念。「調心」の大切さを痛感。坐禅修行不足です」



・氏名／田島道男
・結果／8時間3分39秒
・走る事と「禅」の繋がり／「どちらとも言えない」
・コメント／「レースは毎回痛みと苦しみとの闘いです。ゴールかりタイヤポイントまで行かない限りそれから逃れられません。苦しいは思った瞬間すでに過去のもののはず。なのに何故ずっと苦しい？ というか、苦しいって何？ 苦しいにとらわれなくて只管打走できないかな？ 長いレースではそんなことばかり考えてしまいます」

・氏名／澤田宗博
・結果／30km地点で関門アウト
・走る事と「禅」の繋がり／「ある」
・コメント／「昨年、古希の記念に初参加しました。今回は台風で山道はまるで田んぼの中を走る状況、多くの人が滑り転ぶ中で沢に落ちないように気を配りながら、登る→鉄塔のある頂き→下るの繰り返しに我慢と忍耐の戦い。2分遅れで関門アウトとなり完走できなかったのは残念でした。走りきることは坐ることに通ずるものと思い挑戦し続けています」



・氏名／丸谷泰元
・結果／9時間10分54秒
・走る事と「禅」の繋がり／「ある」
・コメント／「前回、前々回に続き参加して参りました。今大会は邑知小学校から、大本山總持寺祖院までの77kmの予定が、台風の影響で51kmのレースとなり、スタートからゴールまで常に雨の中のレースでしたが、それが逆にただ走るという事だけに集中出来たのではないかと感じました。ゴール後は地元ボランティアの方々を受け、雨で冷えた身体も温まりました」

・氏名／垂水恵光
・結果／30km地点で関門アウト
・走る事と「禅」の繋がり／「あると思います」
・コメント／「今回のコースはまさに修行でした。序盤で道を間違え、泥田のようになった山道で何度も転倒しました。大変な思いをいたしました。私にとって峨山道は特別な聖地です。大好きなトレイルがご縁で一僧侶として峨山道を走れることに感謝感謝です。30km関門に8時間もかかってたどり着きましたが、その間私たちの到着を待っていてくれたスタッフにも感謝いたします」



・氏名／大谷興禅
・結果／20km地点で断念
・走る事と「禅」の繋がり／「あります」
・コメント／「私にとってランニングは健康法であるばかりではなく、走禅であり坐禅と同じです。最高齢とわかり奮起しましたが、雨のコースで何度も転倒しペースが上がらずCP1で断念。悔しいという気持ちも起こりませんでした」

清野宏道さん
曹洞宗総合研究センター
専任研究員



相羽大輔さん
トレイルランアドバイザー



『走る行為と禅の関係性〈一歩に息吹く真の自己〉』

ジョギング・ヨガ。近年は、健康に対する意識が特に高まっているためか、様々なメンタルボディーケアが世に親しまれています。身も心も健全で美しくありたいと願うのは、多くの人々が希求する普遍的な心情と思われれます。そうした目標や目的は、セルフマネジメントを形成するファクターでもありますから、疎かにはできません。向上的な想いは自己を涵養するのです。

目標・目的は大切ですが、その達成のみに執われすぎでないか、よくよく思慮することも大切です。「禅」の根幹は坐禅にこそあります。そのあり方は段階的に目標を設定し、さとりに向かう看話禅と、坐禅そのものをさとりとする黙照禅に大別されます。道元禅師は如浄禅師より黙照禅の教えを承け、「修証一等」の宗義を樹立されました。端的に言えば、「修行とさとりは別ではない」「坐禅〈修行〉し続ける一瞬一瞬に仏法が発揮される」ということです。

その世界観は、決してただ単にやり続けられよという日和見的なものでも、まして坐禅〈修行〉を目的の手段とするような成果至上主義でもありません。愚直な真理の探求上に開かれているのです。だからこそ、道元禅師は「八九成」、どれだけ完璧に成し遂げたとおもっても、常に八・九割の心持ちで精進し続けよと教導されるのです。

ジョギングならば走った距離、マラソンならば完走やタイムばかりが注目されがちです。けれども、そこに到るまでの習練の重さを等閑にはならないでしょう。よい結果を成就することも大切ですが、道元禅師の教えに寄せれば、「走る一歩一歩〈坐禅〉こそがゴール〈さとり〉として躍動する」ことになります。そして、「更なる一歩を」と踏み出すところに、走ることの本義が発現するのです。

人生に照らせば、自分が為すべきことと真摯に向き合い、日々の一つ一つに心を尽くし、常に向上心を持って歩みを進めることでもあります。

この度、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）の方々が「『禅』と走る」を体認されるため、「峨山道トレイルラン」77kmに挑まれたと承りました。大難なく御祖師さまの歩まれた道程を全うされ、更なる向上の一路を進まれておりますこと、而今の祖風現成と存じます。

『トレイルランニングの魅力について』

トレイルランニングは一言で言うと山道を走るスポーツです。登山の延長にあるスポーツなので途中には急な登り下りもありますが、ふかふかな落ち葉の小径を駆け巡り、時には立ち止まって山の景色を楽しむといったようにいろいろな楽しみ方ができます。上級者向けの大会になると、100マイル（約160km）を2日間の制限時間内に走るといった長距離・長時間で開催されるものもあります。

このような長距離の大会を完走するには、日頃の鍛錬で身につけた走力だけでなく、大会中の疲労や体調の変化、気象条件などと向き合いながら諦めずにゴールを目指す強い精神力が必要になります。

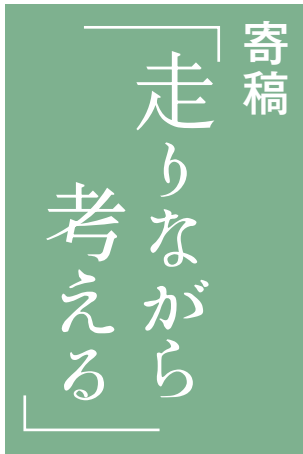
石川県の能登では、峨山禅師が往来したと伝わる、輪島市の大本山總持寺祖院と羽咋市の永光寺を結ぶ「峨山道トレイルラン」が約75kmのコースで開催されています。全国各地で様々な大会が開催されていますが、この峨山道トレイルランは開催される土地や道、そこを歩いてきた人々といった背景を大切に、己の走力・知力・経験を生かして静かに

自分自身と向き合い、限界に挑戦しながら走る大会ということコンセプトにしています。

能登半島には高い山が無く、全体的に走りやすいコースで構成されるこの大会ですが、速い選手にとっては走れるが故に休み所が難しく、完走を目標にマイペースで走る選手にとっても、細かく続く登り下りで諦めない気持ちが試されるといったように、走力にあった厳しさがある大会になっています。

どれだけ歴史がある道であっても、人が通らなければすぐに荒れて自然に還ってしまいます。道は使うことで維持され、未来に引き継がれていきます。ここになぜ道があるのか、なぜここを通っていたのか、そんな事を考えながら峨山道の山道を進むと見えてくる美しい里山の原風景。出会った人と話してみると、その地に伝わる峨山禅師往来の逸話が出てきたり。秋の能登半島で開催される「峨山道トレイルラン」では、そんな苦しくも楽しい旅路が待っています。

ランニング好きの青年僧侶の皆様、挑戦をお待ちしています。



走る生活

今期スローガン『禅を世界へ、そして未来へ』のもと活動していくにあたり、自らが「禅」をきちんと捉え直す機会として特集を企画いたしました。筆者の所感で誌面を埋めるのではなく、ご参加されたランナーの声を集めさせていただいたのは、「禅」を言語化する時、その表現はそれぞれの僧侶の境涯に委ねられるものであると考えたからです。

曹洞宗の禅をアメリカに伝えた故鈴木俊隆老師は「太陽が西から昇ったとしても、菩薩は同じ道を行います」と説法されています（引用：『禅マインド ビギナーズマインド』）。いかなる状況下においても、一瞬一瞬に己の誠実さを表す生き方を説いた鈴木老師は「坐禅の前に身体を左右に揺らすのは坐禅に入るための準備ではなく、それ自身が修行なのです。今行っていることに感謝すべきなのであり、今行っていることは他のことに対する準備ではありません」との言葉を遺されました。

駒大陸上競技部を強豪に育て上げた華々しい実績も、新たに入学してくる学生には関係がないことであり、彼らの一度きりの大学生活に毎年全力で向き合い続ける大八木監督。名声と実績に安住することの無い監督は、道環寮の完成以後は禅語「行持道環」にちなみ毎年チームテーマを「原点と



特集取材を終えて

〇〇」としています。行持道環とは平たく言えば「発心により坐禅し、坐禅によって発心する」という仏道修行の無限であることを表した言葉です。部活動に当てはめるならば「走ることで、走り始めた頃の情熱（原点）に立ち戻る」ということかもしれない。「全ては練習の中にある」の言葉も、「練習の延長線上に本番があるのではなく、練習こそ本番なのだ」と解せば鈴木老師の説かれた「禅」と同じものと言えます。

走るといふ行為

完走者の田島道男師はレース中の心の動きを省察され、長文のコメントを送ってくださいました。師いわく「ランナーは肉体的苦痛を求めているのであり、レースは苦しくなければなりません。鍛えて体力がつけばさらに厳しいレースを求めるのだから、完全に目的行為である。しかし生命の不思議さや尊さ、感謝など苦しさの中で気づくものがたくさんある」とのことでした。

筆者の走りとはというと、私はいつも闘争心で走っています。今回は膝痛の不安と練習不足を悔やみながらの走りでした。坐禅とは何かと問われれば、筆者は「仏の智慧と慈悲を体現する行いであり、正しい坐禅は感謝と思いやりの心に満たされる行いとなり、日常に展開されていくもの」と答えます。ただ、それは良い指導者の元でなされなければ単なる忘我の体験で終わってし

まいます。この度ランナーの皆様からお寄せいただいたコメントには、走る行為を坐禅に引き寄せて考察されたものが多く見られました。私は「走る行為そのもの」と一体となりながら感謝と報恩の心境に到る「ためには全く走力が足りませんでした、坐禅を実践し仏の教えに親しむランナーが走るならば、走ることから生き方を学ぶ道」とも言うべき境涯に到る扉は開かれているようです。静寂な峨山道はうつつのコースです。

厳しいコースですが、強靱な脚力をお持ちの方にとっては永光寺の廻廊を走らせていただけの稀有な経験に加えて、峨山禪師への尊崇の念を深められる唯一無二の大会と言えましょう。また、ボランティアの方々も体の芯まで冷えた我々に足湯をご用意下さり、足の指に巻いていた泥まみれのテーパーングを快く受け取って下さいました。大会前日には、駅内で永光寺への行き方を調べていた我々を心配した市民の方が、お寺まで車で送って下さりもしました。「能登はやさしや土までも」の言葉通りの心温まる体験をいたしました。

大会の今後一層の盛り上がり、ご多忙な中取材にご協力くださいました大八木監督ならびに道環寮の皆様のごさらなる飛躍を祈念いたします。

文／広報副委員長 織田秀道

加盟団体 活動レポート



第42回曹洞宗青年会東北地方集會青森大会 青森県曹洞宗青年会40周年記念大会 「響縁」

平成29年10月30日、160人の会員諸兄・御来賓、約200人の一般市民にご参集いただき開催いたしました。

八戸市涼雲院で記念式典を開催。式典の中では、大会実行委員長の緒子が膝館晋哉実行委員長（青曹青会長）から深瀬清光大（東北地協会長）の手に戻り、次期開催県である山形県の無着哲哉師（山曹青会長）に伝達されました。

その後の一般公開プログラム「第一部〈共縁〉」は、一般社団法人Always With Smile（以下、AWS）代表理事・北山陽一氏（コスペラーズ）をお招きして震災支援をテーマとしたトークセッションを実施。その中で北山氏は「読経と歌。種類は違えども同じ『声』を力にして被災地を勇気づけよう」と活動しているとコメントされ、活動の継続を共に誓う場となりました。

引き続き、AWSメンバーを進行役に、アカペラワークショップ実演を実施し、一般市民や青年会員約30人が参加の上、「まごころに生きる」を練習。活動の一端を垣間見る機会となりました。

「第2部〈響縁〉」では、東日本大震災物故者慰霊・復興祈願の「萬灯供養法要」に引き続き、「追悼復興コンサート・キャンドルナイト」を実施。蠟燭の灯りに照らし出された本堂、響き渡る読経・太鼓の厳かな音のもとで、亡くなられた方々、被災され

た方々に思いを寄せました。コンサートでは、総勢約40人が、「花は咲く」まごころに生きる」などを歌唱し、まさに「縁の響き合う」場となりました。その後、会場をグランドサンピア八戸に移し、懇親会で語らいのひとときを過ごしました。今大会の無事円成にご加担・ご尽力賜りました皆様にご心より御礼申し上げます。

文／青森県曹洞宗青年会事務局長 長岡俊成
中国曹洞宗青年会40周年記念石見大会
「百不当力／無数のチカラあつてこそ」

平成29年11月6日、島根県益田市の島根県芸術文化センター「グラントワ」小ホールに於いて中国曹洞宗青年会40周年記念石見大会「百不当力／無数のチカラあつてこそ」をパネルディスカッションと慰霊法要の2部形式で開催いたしました。

昨年は東日本大震災七回忌、熊本地震一周忌を迎え、また、近年全国で自然災害が多数発生していることから、東日本大震災関連では僧侶を代表して、曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室主事の久間泰弘師（福島県）、臨床宗教師の高橋悦堂師（宮城県）。アーティストを代表して現在も宮城県塩釜市を中心に支援活動やアニマルシェルの活動もされているロックバンド「Dragon Ash」ダンサーで一般社団法人 POWER of LIFE代表のATSUSHI氏。熊本地震関連は岩崎哲秀師（熊本県）、須川憲司師（長崎県）にそれぞれのお立場からパネルディスカッション形式で発表していただきました。特に

ATSUSHI氏のお話には会場の誰もが興味を持って聞いているように感じました。2部では主管である石見曹洞宗青年会と須川憲司師（祈禱太鼓）、ATSUSHI氏（表現）によって慰霊法要が執り行われました。当然のことながら曹洞宗の法要には表現者という配役はなく、ご批判があるかもしれませんが。しかし、盆踊りのように「舞う」ということは古来より供養の意味を持っています。今回「志」を同じくする同志としてそれぞれの手法で慰霊法要を勤めさせていただきました。

文／石見曹洞宗青年会 城市泰紀





全日仏青 News



JYBA
ALL JAPAN
YOUNG BUDDHIST
ASSOCIATION

仏教の未来を真摯に考える研修会 『現代の僧侶を考えるワークショップ』 始動と募集のお知らせ

全日本仏教青年会
『現代の僧侶を考えるワークショップ』
参加費 3,000 円
問い合わせ / 未来の僧侶研修委員会
成田淳教
gensou.work@gmail.com



研修会ページ



申し込みページ

今期全日本仏教青年会(以下、全日仏青)が発足し、早いもので7カ月あまりが経ち、これまで準備を進めてまいりました各事業がいよいよ本格的に動き出しています。本年1月からは専門委員会「未来の僧侶研修委員会」による『現代の僧侶を考えるワークショップ』が始動しました。当事業が今期全日仏青の基幹事業の一つとなります。現代社会には寺院や僧侶に対する様々な需要がある一方、一般の方々との意識の隔たりが拡大しつつあると感じられる昨今です。そんな状況を好転させるべく、寺院に対するアンケート調査結果やこれまでに検討された資料をもとに、全国30カ所で「ワークショップ形式の研修会」を展開していきます。首都圏のみならず、各地域によって需要や環境が異なることも考慮した研修会ができあがりしました。その内容の一端をご紹介します。

受講対象は全日仏青会員および既成仏教

教団所属青年僧侶として、研修時間はおおよそ3時間程度の予定です。研修会を通して、仏教を後世へと伝えていくために現代社会に求められる僧侶とは何かを、全国の青年僧侶と共にグループワークによって検討していきます。また、これらの声は、本年11月に開催する仏教徒の世界大会に向けて集約して、日本全国の青年僧侶の声として、世界大会に向けた提言としてまとめていく予定です。本研修会につきましては、すでに全日仏青公式HP上で告知並びに参加の募集を進めております。詳細は同HPでご覧いただけるようになっておりますので、ご高覧をお願いいたします。多くの皆様のご参画を心よりお待ちしております。

文 / 全日仏青特別委員会事務局長
全日仏青事務局長 内藤宏信

レポート全曹青

第6回

つるみ夢ひろば in 總持寺



平成29年11月3日、大本山總持寺を会場に、「第6回つるみ夢ひろばin總持寺」が開催されました。大祖堂を中心にステージパフォーマンス、様々な展示物、シンポジウムなど幅広く催し物がありました。

全曹青は、参道を中心とした門前パザールにおいて、写真・塗り絵・写経用紙頒布ブースの設置、災害復興支援のパネル展示、義援金の勧募を行いました。また曹洞宗婦人会と連携し、被災地支援の物販を行いました。

塗り絵は地藏菩薩、文殊菩薩など様々な種類を用意しましたが、準備した枚数が足りなくなるほど人気を博しました。お子さんが塗り絵を行っている間、隣で保護者の方が写仏を行う姿も見られました。また物販においては、宮城県と熊本県を中心としたお菓子や海産物などの販売が行われました。

東北被災地と地元鶴見の皆様がともに模擬店を設置してイベントに臨む姿に、被災地との絆を深めようという意志を感じることができました。

文／庶務 竹内大崇



災害復興支援部 研修会開催

平成29年11月22日、曹洞宗檀信徒会館5階研修道場で、「災害復興支援部研修会」を開催いたしました。

講師には、災害復興支援の専門家でもあり、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（以下、支援P）委員の、茨城県高雲寺住職・米沢智秀老師を迎え、「青年僧の可能性」～災害復興支援の現場から今 伝えたい事！～と題し講演いただきました。

米沢師は、宗教家としては初めて、支援Pとして国内被災地の災害ボランティアセンターの運営支援に派遣され、平成20年より今日まで、さまざまな災害現場で活躍しております。その現場で今まで培ったノウハウや知識、自然災害に対

する強みを活かした活動などを余す所なく私たち青年僧へ伝えていただきました。青年僧として、今だから出来る事、今しか出来ない事を考え、柔軟できめ細やかな、心に寄り添うボランティア活動の大切さ、支え合いの大切さを実感する研修会となりました。

文／副会長 菅原宗玄



宗教法人会計普及に向けて

第1回・変化しないものはない

学校法人 大原学園理事長／中川和久

今

、日本企業の目の前には困難な茨の道が広がっているように思えます。日経平均株価を初めとする金融経済は一見好調ですが、実体経済は中々に難しく、劣悪な環境で必死に勤しまれる多くの労働者達の犠牲の下、何とかその姿を維持できているというのが正直なところでしょう。

また、一部の大企業による不正経理や品質詐称という事件群は、グローバル経済における日本の相対的な立ち位置をより一層後退させる要因ともなり得ましょう。空白の20年と言われる日本経済がいよいよ持ち直したかのような報道を目にいたしますが、多くの日本人が感じている実態とは乖離があると言わざるを得ません。日本経済が入り込んでしまった長く暗いトンネルはバブル崩壊に起因するものと考えられておりますが、これは厳密には正しい理解ではありません。変化を認識し、タイムリーに企業を取り巻く状況に最適化させるような自己変革さえできていれば、傷口はここまですで広がらなかつたはずなのです。

変革に適した機会はいくらでもありました。例えばインターネットの黎明期やグローバル経済の重要性が説かれ始めた時期など、思いつく限りでも容易に転換点を想起する事ができます。しかしながら多くの日本企業は、かつてのバブル期の栄華や人口動態がもたらす特殊な状況による幻影経済にとり付かれ、変革を恐れ怠るといった致命的な経営判断ミスを犯し続けました。今日の状況は、決してバブル崩壊だけに起因するものではなく、過去の栄華という自らの成功体験へ執拗に固執

し、変革に向けた努力を怠ったことが少なくない要因であることがご理解いただけると思います。

さて、奢れる者久しからずという、先人の言葉の通りとなったバブル後の日本経済は、それでも2000年代中盤頃からは緩やかに世代交代が進み、あたかも川の水が流れ始めたかのように組織改革へ着手できる企業も増えていきました。多くの企業が組織変革へと乗り出して、その効果も徐々に始めておると感じますが、決して良い方向に向かっていく企業だけではありません。

ビジネスにおける変革とは、「何のために」普遍的価値観を実現(目的)、「何をどうやって」変革によって(手段)と考えられています。換言すれば企業とは、「普遍的価値」を守り実現するために「変革」を続けることが義務付けられた組織体とも言えます。こうした理解が曖昧なままに行われた組織改革は、得てして普遍的な価値そのものを毀損してしまいがちで、改悪の末、企業の存続すら危ぶまれる事態に陥ることがあります。

昨今の不正経理や品質詐称といった事件は、業務の効率化という変革を進める中で、顧客第一という普遍的価値を見失い、自社第一となったからこそ起こった事でしょう。変革そのものは極めて重要なのですが、変化に流されないよう、自身が何者なのかを改めて認知し、その価値を再認識する事も同じくらい重要な事です。

ところで話は変わりますが、最近AI(Artificial Intelligence)という言葉が耳にする機会が増えたと感じにはならないでしょうか？ いわゆる人工知能のことですが、ここ1、2年の産業界でのトレンドは専らAIを用いたIoT(Internet of Things)製品の開発となっております。人工知能と言いますとSFの世界を連想してしまいがちですが、2015年にはディープラーニングというAI性能を最大効率で高めるための技法が爆発的に普及いたしましたことから、もはや猫も杓子も

ディープラーニングという状況で、産業界には空前のAIブームが到来しております。

グーグルやアマゾン、アップルといったIT企業はこぞってAI開発に巨額の投資を行い、その額は年間1兆円にも上ると言われておりますので、人工知能ブームは当面終わる気配がありません。それどころか自動車の自動運転技術の完成は2025年頃といわれていたのが、2018年にも無人タクシーとして実用化されそうな気配がありますので、益々加速している状況が伺えます。第4次産業革命とも言われるこの状況は、積極的に変革に取り組まなければ取り返しがつかないようなインパクトを我々に与えそうです。

さて、ここまで意図的に「企業」を主体に据えてお話を進めてまいりましたが、もちろん我々学校も、他人事ではございません。営利法人である企業に対して、非営利法人である学校法人は、長らく国からの税制優遇による保護を受けて参りましたので、今まで変革を求められる機会が比較的に少なかった歴史があります。

しかしながら、第4次産業革命は従来の変化を遙かに凌駕するようなインパクトを我々に与えることは確実で、既に教育現場ではE-learningやAI教材と言った教職員に代替されるような技術導入が進んでおりますし、お寺でもアマゾンのお坊さん便が話題を博したりと、その影響は看過できない状況ではないかと推測いたします。

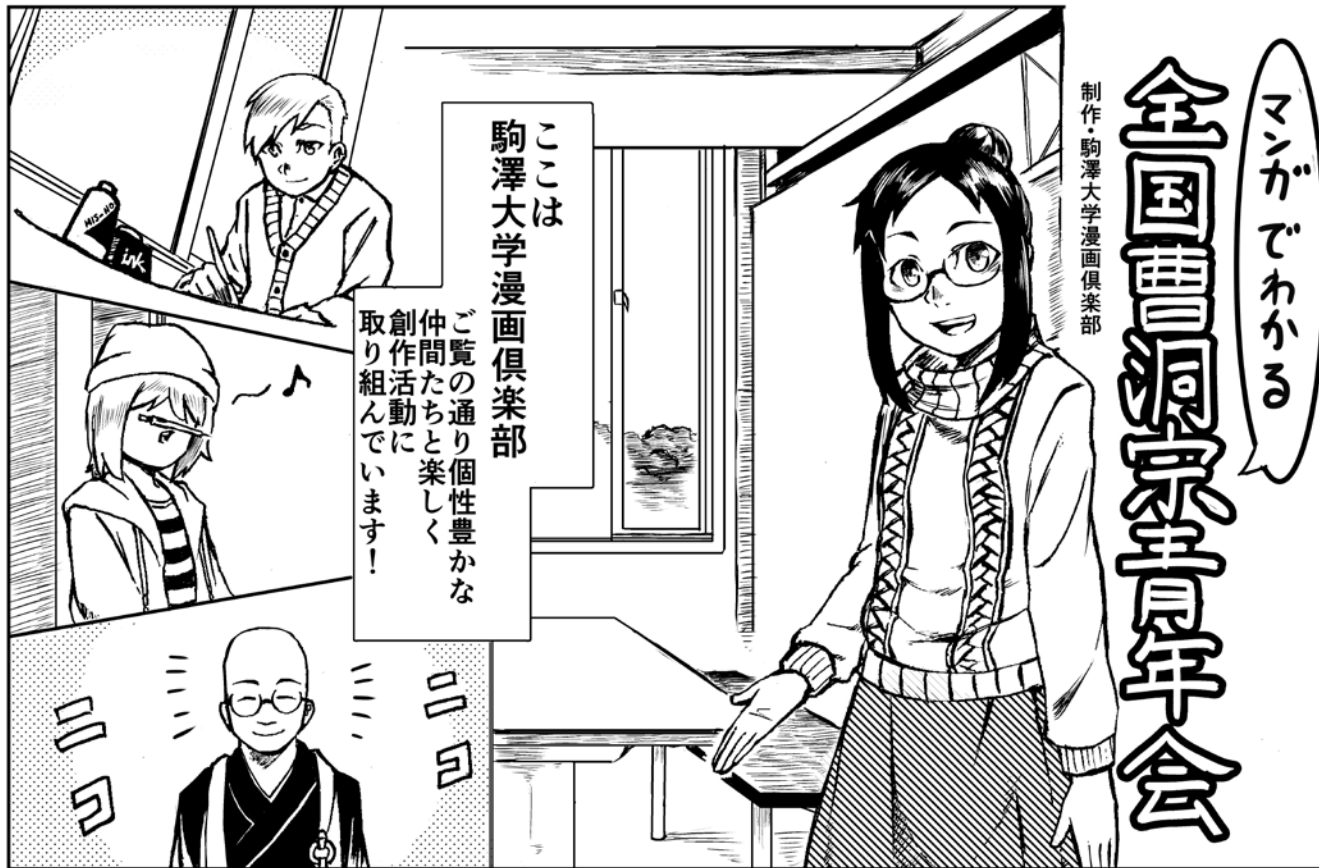
如何に非営利法人がビジネス目的ではないとは言え、金銭を扱っているのは事実ですし、金銭がなければ倒産・解散を余儀なくされるわけですから、経営的な思考も必要ではないかと思えます。むしろ営利法人がビジネスの観点で非営利法人の活動領域に踏み込もうとしているわけで、それに非営利法人も対処していく必要があります。次回以降、「収支差額」を上げるためにどの様な対応が望まれるのか、連載を続けさせていただきます。

『学校法人 大原学園概要』

- ・名称／学校法人 大原学園
- ・本部／東京都千代田区西神田 1-2-10
- ・創立／1957年東京水道橋に大原簿記学校を開校し、1979年に学校法人大原学園を設立
- ・基本金／1,176億円(2017年4月1日現在)
- ・理事長／中川 和久
- ・総校数／107校(2017年4月1日現在)

資格の大原

就職の大原



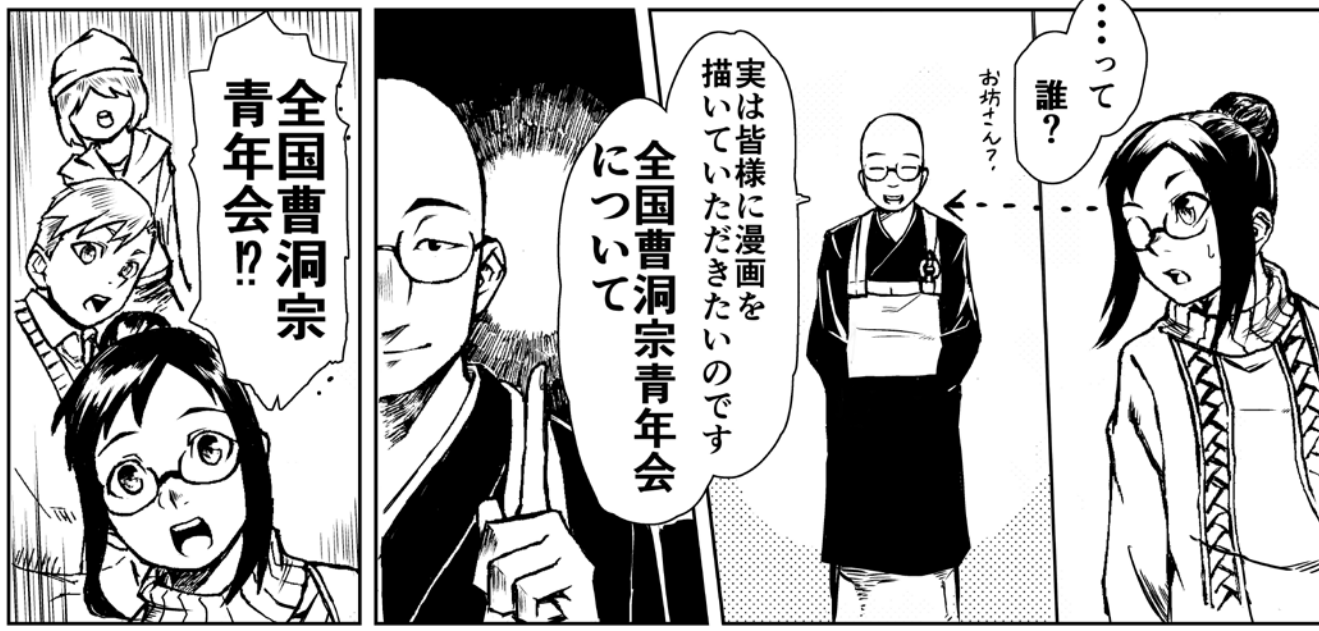
制作・駒澤大学漫画倶楽部

マンガでわかる

全国曹洞宗青年会

ここは
駒澤大学漫画倶楽部

ご覧の通り個性豊かな
仲間たちと楽しく
創作活動に
取り組んでいます！



……って
誰？

お坊さん？

実は皆様に漫画を
描いていただきたいのです

全国曹洞宗青年会
について

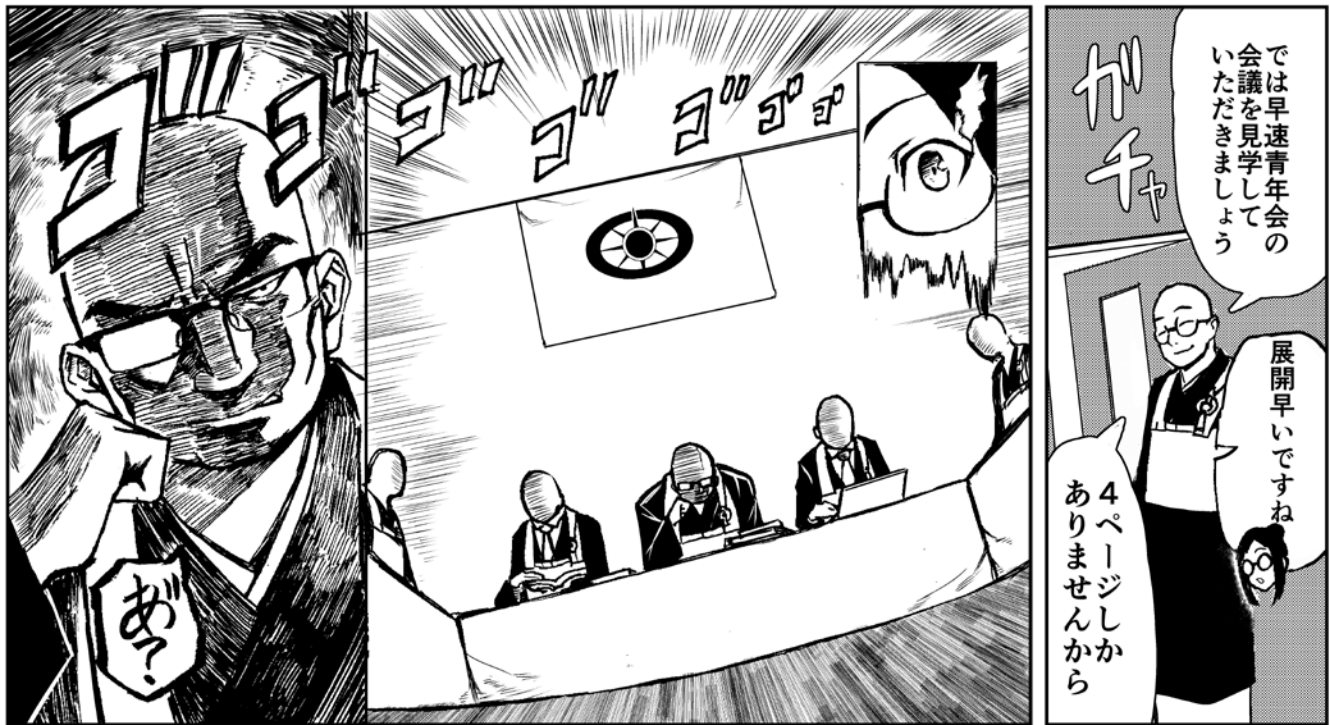
全国曹洞宗
青年会!!

・駒澤大学漫画倶楽部について

私たち駒澤大学漫画倶楽部は、駒澤大学で数十年に渡り活動してきた歴史あるサークルです。活動は毎月お題に沿ったイラストを気軽に持ち寄る「テーマ杯」や、夏・冬に発行し大型同人誌即売会でも販売する部誌「DREAMS」の制作、オリジナルグッズの製作など多岐に渡ります。



Twitter: @komakomamanga



・全国曹洞宗青年会の役職について

【会長】

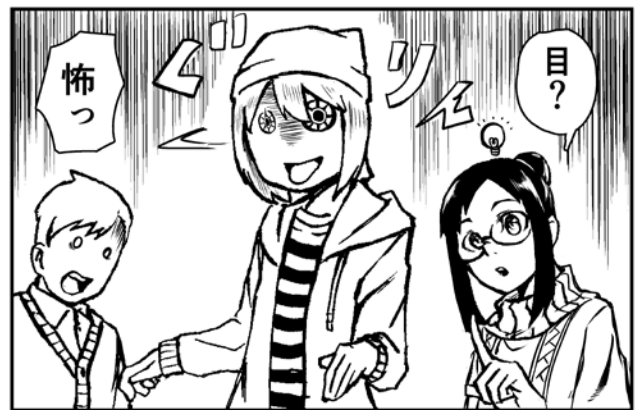
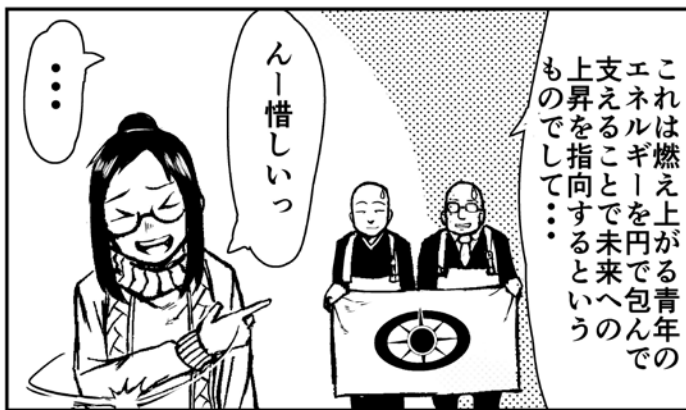
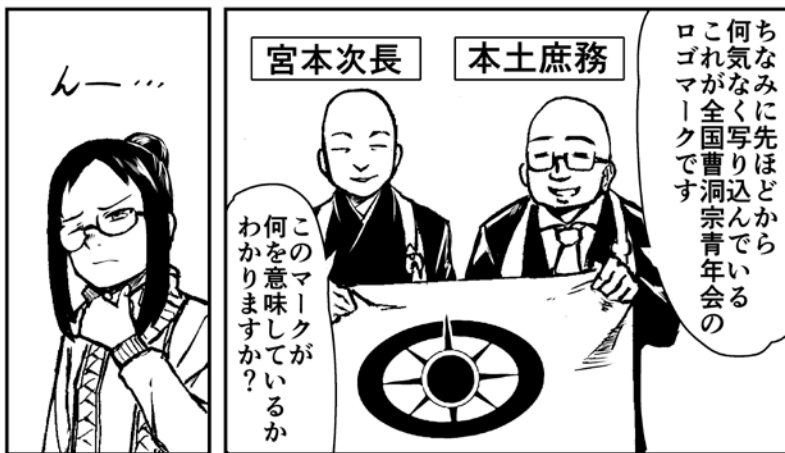
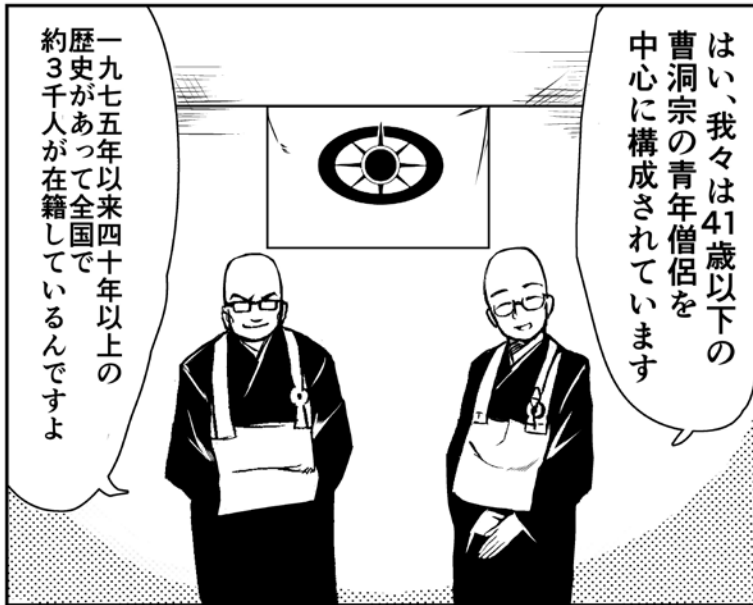
会を代表し会務を統理する最高執行者。

【執行部】

会長、副会長、事務局長、会計、各委員会の委員長らから組織され、会の運営に当たる。

【委員会(第22期)】

総合企画委員会、教化委員会、広報委員会、災害復興支援部、臨床宗教師特別委員会、全日仏青特別委員会がある。



・スローガンについて

全国曹洞宗青年会は2年を任期に執行部が代わり、新しいスローガンが設けられます。現在は22期目で、そのスローガンは『禅を世界へ、そして未来へ』。「世界」とは国際化、「未来」とは禅の発展を意味し、曹洞宗の禅を世界に広げ一般の人々や他の宗教との交流を通じ未来へと継承していくという思いが込められています。



映画『典座—TENZO—』制作始動!

今期の全曹青は『禅を世界へ、そして未来へ』をテーマとして掲げております。そこで禅を世界へ発信・伝播するべく、カンヌ国際映画祭短編部門を目標に見据えて、映画『典座—TENZO—』の制作に取り掛かっております。今号より、『SOUSEI』誌面で映画制作の進捗状況や、現場の様子をご紹介します。

②イメージビデオ撮影
昨年11月29、30日に大本山總持寺に於いて、映画のイメージビデオの撮影が行われました。僧堂飯台や、典座寮での調理の様子、朝課諷経、作務の様子など、大本山總持寺の修行僧にもご協力いただき、2日にわたり撮影を行いました。
わずか1分30秒ほどの動画ですが、他の場所でも撮影は行われました。完成した動

①映画チラシの作成
右記の告知チラシを作成し、前号の『SOUSEI』に封入しました。応量器の中に描かれている世界地図は、あらゆる恵みをいただいていること、そしてその「いち」をいただく有難さを世界へ発信することを表しています。下の4枚の写真は自然の中で育まれた食材を調理し、食事になりそれをいただく過程を表しています。

これまでの進捗状況



文／教化委員長 近藤真弘

③富田監督の両大本山拝観
映画の撮影場所は主に大本山永平寺と大本山總持寺を予定しています。そこで昨年、12月12日に大本山總持寺に、12月24、25日に大本山永平寺に富田監督が拝観、拝宿されました。
監督は精進料理を食され、拝観ではそれぞれ両大本山の佇まいや伽藍の壮大さに感嘆されていました。

画は全曹青HP「般若」やFacebookから閲覧可能です。



映画監督のご紹介



富田克也(とみたかつや)氏

【経歴】
1972年生まれ。
山梨県甲府市出身。
映画美学校フィクション・コース第1期初等科修了。
2003年、デビュー作『雲の上』を監督。
2007年、映画美学校映画祭スカラシップ作品『国道20号線』を監督し、『映画芸術』誌上で2007年の日本映画ベスト9位に選ばれる。
2011年、『サウダーヂ』が第64回ロカルノ国際映画祭で独立批評家連盟特別賞を受賞したほか、第33回ナント三大陸映画祭で金の気球賞を受賞。
2012年、第66回毎日映画コンクールでは日本映画優秀賞と監督賞を受賞。
2016年、『バンコクナイツ』で第69回ロカルノ国際映画祭・インターナショナルコンペティション部門で若手審査員賞を受賞。

花まつりキャンペーン

本年度も「花まつりキャンペーン」と称し、甘茶・シールなどを同封した花まつりセットの頒布をいたしました。総頒布数は約22,000セットと好評をいただきましたこと、全国のご寺院様の当会に対するご理解の賜物であります。ご利用いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

全国よりお寄せいただいた塗り絵ハガキは、花々が美しく咲きお釈迦様の誕生をお祝いしたように、お子さんは元気いっぱい、ご年配の方は細部まで心を込めて彩色していただきました。塗り絵に合わせてお書きいただいた願文では、お子さんの「オリンピックに出たい」「ケーキ屋さんになりたい」など微笑ましい未来への夢や希望や、身近な方の病氣平癒・世界の平和への祈り・近年多発する災害からの復興など様々で、ハガキ一枚一枚から深い想いが伝わってまいりました。

当キャンペーンでは返信していただいた塗り絵ハガキを両大本山に奉納しております。様々な想いを込めた塗り絵ハガキは、北海道・東北・関東・北信越各管区のハガキを10月20日に大本山永平寺へ、東海・近畿・中国・四国・九州各管区のハガキを11月3日に大本山總持寺に謹んで奉納させていただきます。

花まつりに家族で一緒に甘茶を飲みながら、お子さんと可愛らしい仏様に塗り絵をしていただくことで、世代を超えて花まつりについて考えていただく時間を提供できたのではないかと考えております。

来年度も引き続き「花まつりキャンペーン」を実施いたします。花まつり法要や幼稚園等での行事でご活用いただければ幸甚に存じます。詳細については、同封のチラシ、または全書青HP「般若」をご覧ください。

文／総合企画委員長 日向真学



全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。

この度もご協力いただき誠に有難うございました。

◆新潟県第3

- 514 長命寺 様
- 530 花栄寺 様
- 553 安住寺 様
- 587 徳泉寺 様

◆新潟県第4

- 85 林昌寺 様
- 738 不動寺 様
- 749 蓬林寺 様

◆福島県

- 70 安禅寺 様
- 90 明光寺 様
- 101 成林寺 様
- 110 龍徳寺 様
- 121 長泉寺 様
- 131 天性寺 様
- 226 常隆寺 様
- 295 高萩院 様
- 373 泰雲寺 様

◆宮城県

- 1 昌傳庵 様
- 4 圓福寺 様
- 19 大林寺 様
- 177 珠光寺 様
- 212 祥雲寺 様
- 281 光明寺 様
- 314 満福寺 様
- 352 安永寺 様
- 387 福田寺 様
- 440 城國寺 様

◆岩手県

- 21 恩流寺 様
- 43 中興寺 様
- 80 寶昌寺 様
- 83 新仙寺 様
- 158 願成寺 様
- 224 普門寺 様

◆青森県

- 20 盛雲院 様
- 39 正法院 様
- 99 正法寺 様
- 100 澄月寺 様
- 105 東昌寺 様
- 112 法蓮寺 様
- 189 乗照寺 様

◆山形県第1

- 208 普門寺 様
- 214 長泉寺 様

◆山形県第2

- 272 蓬萊院 様
- 322 洞松寺 様
- 371 照陽寺 様

◆山形県第3

- 468 宗傳寺 様
- 614 常林寺 様

- 639 慶全寺 様
- 708 光浄寺 様

◆秋田県

- 17 補陀寺 様
- 70 玉龍寺 様
- 80 泉秀寺 様
- 95 蔵昌寺 様
- 207 大川寺 様
- 237 龍泉寺 様
- 265 倫勝寺 様
- 308 實相寺 様
- 321 鏡得寺 様
- 323 恩徳寺 様
- 353 安養寺 様

◆北海道第1

- 45 延命寺 様
- 96 観音寺 様
- 253 大慈寺 様
- 484 禅福寺 様

- 510 禅燈寺 様

◆北海道第2

- 358 禅照寺 様

インターネット
受付分

◆静岡県

- 光明寺 様

◆三重県

- 中川政紀 様

◆島根県

- 養善寺 様

◆秋田県

- 玉龍寺 様
- 倫勝寺 様

ボ ラ ン テ イ ア 基 金 感 謝 録

- 東京都 静勝寺 様
- 静岡県 延命寺 様
- 三重県 四天王寺 様
- 岡山県 岡山県曹洞宗青年会 様
- 島根県 仲仙寺 様
- 宮崎県 観音寺 様

- 長野県 宗徳寺 様
- 岩手県 宝昌寺 様
- 北海道 照心会 様
- 北海道 札幌禅林青年会 様
- 北海道 第一宗務所第一教区 布教師会 道心会 様
- 北海道 第一宗務所第二教区 道友会 様
- 北海道 第二宗務所第一教区青年会 様
- 北海道 北海道第二宗務所第五教区 一心会 様
- 北海道 第三宗務所第一教区 青年部 禅真会 様
- 北海道 第三宗務所第六教区 青年会 現成会 様

そろそろ修理

掛軸 書画平切、三、九万円より
仏壇軸、仏巻軸 修理新調
涅槃図等、大巾

山号寺号額 二十九万円より

書画額 平切1/3修理新調、二、五万円より

仏像 手指欠損や修理新調、五万円より
袈衣の修理、新調、補充

仏具 金具交換、漆塗りし、修理新調

式典具 衝立張替、三、九万円より
屏風修理新調

納骨壇 製造価格にて新調

過去帳 表紙の取替、裏表、一万円より
虫喰補修

大般若經 補修

見積無料

京都掛軸 杉本工芸
〒602-8268 京都市上京区山里町 236-1 TEL 075-417-6966

賛助費浄納御芳名簿

平成29年9月29日～平成30年1月5日取扱い分

◆東京都

54 萬福寺 様
60 陽壽院 様
151 静勝寺 様
177 清巖寺 様
256 妙全院 様
333 雲慶院 様
345 正法院 様
376 東照寺 様

◆神奈川県第1

331 大長院 様

◆神奈川県第2

14 傳心寺 様
18 寶泉寺 様
27 東林寺 様
56 宗泉寺 様
83 正翁寺 様

◆埼玉県第1

181 長光寺 様
389 集福寺 様

◆埼玉県第2

256 豊泉寺 様
334 安楽寺 様

◆群馬県

89 龍昌寺 様
99 龍傳寺 様
111 雲林寺 様
285 桃林寺 様

◆栃木県

29 円明寺 様
69 慶翁寺 様
114 高林寺 様
145 瑞泉院 様

◆茨城県

13 龍泉院 様
15 鳳台院 様
113 常見寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
22 廣壽寺 様
25 萬福寺 様
29 慶林寺 様
35 海福寺 様
60 東伝院 様

68 超林寺 様
76 全宅寺 様
272 永泉寺 様
296 東善寺 様

◆山梨県

15 千松院 様
45 永昌院 様
115 海潮院 様
265 宝鏡寺 様
276 泉福院 様
281 長生寺 様

◆静岡県第1

26 宝珠院 様
50 盤龍寺 様
127 楞嚴院 様
202 先照寺 様
208 延命寺 様
388 林叟院 様
464 正泉寺 様

◆静岡県第2

228 耕月寺 様
319 源光院 様
329 永昌寺 様
334 清富寺 様
362 福泉寺 様
363 観音寺 様

◆静岡県第3

676 弧雲寺 様
791 春林寺 様
870 窓泉寺 様
989 観音寺 様

◆静岡県

山崎一典 様

◆愛知県第1

17 光明院 様
28 長松院 様
55 長全寺 様
101 成福寺 様
111 龍興寺 様
127 龍潭寺 様
158 秀傳寺 様
162 妙測寺 様
292 高雲寺 様
313 長松寺 様
342 常楽寺 様
354 廣濟寺 様
358 玉泉寺 様
375 春江院 様

635 永澤寺 様
644 増福寺 様
1250 松福寺 様

◆愛知県第2

684 花井寺 様
812 龍拈寺 様
872 傳法寺 様

◆愛知県第3

428 寶珠院 様
1106 寶鏡寺 様

◆岐阜県

219 勝林寺 様

◆三重県第1

3 源盛院 様
15 養泉寺 様
25 福壽院 様
28 萬壽寺 様
33 宗徳寺 様
35 弘善寺 様
37 四天王寺 様
54 専行寺 様
59 長樂寺 様
112 浄眼寺 様
128 妙泉寺 様
133 亘勝院 様
144 福源寺 様
204 高泉庵 様
269 大蓮寺 様
287 桃源寺 様
305 傳法院 様
308 地福院 様
318 来迎寺 様
353 善光寺 様

◆三重県第2

392 大義院 様

◆滋賀県

143 永壽院 様

◆京都府

389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
31 正泉寺 様
61 大廣寺 様
98 吉祥院 様

◆和歌山県

20 三寶寺 様

◆兵庫県第1

37 正林寺 様
55 長命寺 様
287 向榮寺 様

◆兵庫県第2

170 円通寺 様
188 興禪寺 様
217 長福寺 様
225 大雲寺 様
270 臨川寺 様

◆岡山県

28 洞松寺 様
59 観泉寺 様
125 大椿寺 様
131 済渡寺 様

◆広島県

8 聖光寺 様
34 吉祥寺 様
46 双照院 様
67 西福寺 様
76 長福寺 様
86 西金寺 様
150 無量寺 様

◆山口県

38 成海寺 様
102 保福寺 様
190 享徳寺 様

◆鳥取県

151 安国寺 様
167 同慶寺 様

◆島根県第1

332 興源寺 様

◆島根県第2

2 永昌寺 様
5 地福寺 様
21 仲仙寺 様
39 常喜寺 様
50 妙岩寺 様
63 龍覚寺 様
66 浄心寺 様
70 完全寺 様
140 法藏寺 様
146 観知寺 様

◆高知県

13 願成寺 様

◆愛媛県

93 長命寺 様
146 興雲寺 様
164 城慶寺 様
四国地区曹洞宗青年会 様

◆福岡県

28 桂木寺 様

◆長崎県第1

38 大雄寺 様
51 祥雲寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県

108 光明寺 様

◆熊本県第2

78 地藏院 様
79 向陽寺 様
88 明德寺 様

◆宮崎県

6 祐國寺 様
34 水月寺 様

◆長野県第1

38 耕雲庵 様
65 柳原寺 様
86 圓福寺 様
147 徳應院 様
330 興善寺 様
364 龍昌院 様
370 日輪寺 様

◆長野県第2

389 宗福寺 様
400 長久寺 様
419 宗徳寺 様
441 雲龍寺 様
557 広正寺 様

◆福井県

232 長泉寺 様
265 西方寺 様
272 洞善寺 様

◆新潟県第1

354 法音寺 様
373 常福寺 様
393 曹源寺 様
445 永林寺 様
453 龍澤寺 様
496 長樂寺 様

監事 蓮池泰道

第22期監事を務めさせていただくことになりました蓮池泰道と申します。全曹青との関わりは全く初めての事ですが、外から一般からの視線を大事に任に当たりたいと考えます。今期の事業が無事円成されますよう祈念しつつ、また微力ながら出来る限り協力して行く所存です。よろしくをお願いいたします。



監事 伊藤承章

今期監事を務めさせていただきます、東三河曹洞宗青年会OBで特別会員の伊藤承章と申します。監事の役割は執行部が計画する事業に対し、倉島会長が掲げるスローガンとしっかりリンクしているか、適切な予算執行かどうか、そして、組織体として適切かつ雰囲気の良い会務運営が行われているかを客観的に考察し、良き助言を心がけることと考えます。特に多くの方々に賛助費のご協力をいただきますので、有効かつ適切な予算執行を心がけます。



事務局次長 宮本昌孝

山口県曹洞宗青年会から参加させていただいております宮本昌孝と申します。前期は総合企画委員会の一員として皆様大変お世話になりました。全曹青に出席させていただく度に、全曹青が持っている力、会に携わっている方々の力に圧倒されております。今期のスローガン「禅を世界へ、そして未来へ」とありますように、自分自身「禅」そのものを見つめ直し、発信できるように精進してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。



ごあいさつ

全曹青
real voice



庶務 竹内大崇

曹洞宗福島県青年会より参加の竹内大崇と申します。この度、庶務を務めさせていただく事となりました。会議の運営や諸々の行事が円滑に行われるように、補佐の任を全うしたいと思います。今、全国ではどのような動きがあるのかを見て、聞いて、それを地元へと持ち帰り、また自分自身への刺激として勉強させていただきたいと思っております。まだ分からない事だらけでご迷惑をおかけしますが、2年間どうぞよろしくお願いいたします。



庶務 葛籠貫直隆

この度、第22期庶務を務めさせていただきます、熊本県曹洞宗青年会の葛籠貫直隆と申します。初めての全曹青活動で分からないことばかりですが、会長をはじめ諸先輩方のお力になれるよう、又「禅を世界へ、そして未来へ」のスローガンのもと、どうすればより良い事業、活動となるか自ら考え、自分にできることを精一杯努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



庶務 本土悠悟

第22期庶務に四国地区曹洞宗青年会から参加させていただいている本土悠悟です。第21期から庶務として活動させていただいています。今期は災害復興支援部事務局員としても微力ながらできることを一生懸命行っていき、活動していきたいと思っております。今期も全曹青内では色々な企画を準備しています。庶務の仕事は執行部のサポートだと思っています。たくさんの企画に積極的にいつも元気でニコニコ参加できるようにしていきます。



庶務 原田恵一

曹洞宗長野県第一青年会よりまいりました、原田恵一と申します。皆様よろしくお願いいたします。この度、庶務のお役を頂戴いたしました。与えられた役を全うさせていただくのは当然とし、全曹青に参加する以前より関わりを持たせていただいている曹洞宗復興支援室分室様、シャンティ国際ボランティア会様の活動を、全曹青を通じてより多くの方々に発信し、より多くの方々と文字通りの共働をしていける様に精進してまいりたいと思っております。



庶務 内田裕大

三重県曹洞宗青年会から参加しております内田裕大と申します。初めて全曹青の会議に出た際は分からない事ばかりで戸惑いもありましたが半年が経ちようやく慣れてきたところです。他の庶務と協力し会務運営に支障のないよう努めていきたいです。また、今期大きな事業を控えていますので成功出来るよう努力精進していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



連載



第2回

ありがたし

愛知県 正壽寺寺族 早坂宏香



先日信号のない横断歩道を渡ろうとしていたのですが、長い間行き交う車が途切れるのを待つてようやく道を渡れた・・・ということがありました。「横断歩道は歩行者優先のはずなのになあ」と寂しい気持ちで歩いていましたら、ふと、半年ほど前のことを思い出したのです。

その日の夕刻、路地の小さな交差点で中学生の女の子と行き会い、車を運転していた私は停車して彼女に道を譲る合図をしたのです。軽く会釈をした彼女が道を渡り終えた時、くるとこちらへ向き直り深々とお辞儀をしたことに、私はあたりまえのことをしただけなのにどうして!?!と、とても驚いたのです。

あの日の彼女の心と、自分の心には大きな違いがありました。

彼女はただ純粹に「ありがたう」と感謝していたのに対して、私は「あたりまえなことしてもらえなくて悲しい」という愚痴だったという事。

なんとも情けない自分の心のあり様でした。そしてこれに気がついた時に「子どもに教えてもらうなんていい年をして恥ずかしい」と思ってしまった、あっ!ここにもあたりまえの沼!

このような無意識のあたりまえの沼は、まだまだたくさんありそうです。法律や規律、ルールやマナーなど、現代にはいろいろな決まりごとがありますが、それを守ってあたりまえと捉えるのではなく相手が手向けてくれた優しさや心遣いを「有難いこと」と感謝し、道の真ん中を歩む人へ少しでも近づきたい、そのように感じた出来事となったのです。

108人108回太陽礼拝×坐禅 @曹洞宗檀信徒会館

平成29年12月16日、曹洞宗檀信徒会館で、YMC
メディカルトレーナーズスクール主催の「108人
108回太陽礼拝×坐禅」イベントが開催されまし
た。

午前中は「108人108回太陽礼拝」と称し、ヨガ
講師の佐藤ゴウ氏が中心となり108回の太陽礼拝
に取り組みました。内容としてはいわゆる「五体
投地」を、煩惱の数である108回繰り返すというも
のです。合掌し、両手を天に掲げ、投地してから
身を起こすという一連の動きに屈伸運動も加わり、
1回の礼拝にかなりの体力を使います。参加
者の方々は汗をかきつつ熱心に取り組み、背後に
流れる木魚のリズムと青年僧侶の読経を聞きなが
ら、無事108回の太陽礼拝を円成されました。

午後は坐禅体験と「仏教とヨガについて」のト
ークショーが行われました。坐禅体験では青年僧侶
の指導のもと、参加者それぞれが坐蒲に坐り本格
的な坐禅を実践しました。挙手をして、積極的に
警策を受ける方もいました。トークショーでは河
口智賢副会長と佐藤ゴウ氏が「仏教とヨガにつ
いて」語り合い、仏教とヨガ、同じルーツを持ち
ながら別々に分かれてしまったものをどう繋げる
か、といったことが話し合われました。

夕方頃まで続いたイベントでしたが、参加者
の方々は充実した表情で会場をあとにされました。

文／広報委員 田ノ口太悟



青年僧侶のおすすめの1冊

『彼の容貌を私たちは見たこともない。彼の声を私たちは聞
いたこともない。今から語るイエスはどんな顔をされていたの
かも私たちは知らぬ』

本書はこのような書き出しで、イエスが存在したのは遠い昔
のことであり、その人の人柄、考え、行動を客観的に把握する
のはいかなる方法をもってしても不可能だとまず最初に宣言す
る。そしてその前提の上に立って、遠藤周作は、詳細な聖書
読解と深い思索によりながら、恐ろしいほどの密度と濃さでも
って一個の「イエス」を立ち上げていく。それは彼が「同伴者
イエス」と呼ぶものであり、奇跡を起こす神ではなく、悩みに
とりつかれた人々にただひたすら寄り添う人間としてのイエス
だ。遠藤周作によって立ち上げられた「イエス」は、生々しい
迫力に満ちている。それはその「イエス」像に、遠藤周作の背
負ってきた切実な悩みが反映されているからだろう。

ところで、お釈迦様はイエスに遡ること500年ほども前に入
滅している。客観的把握が難しいという点で、事情は同じな
のである。私も一度、自分とお釈迦様の二人きりになった気分
で、お釈迦様の人生と教えに肉迫する努力もしてみようかなと
思う。すると自分自身の悩みも明確になる気がする。あるいは
卑小な自分では計り難いお釈迦様の深遠な考えも。
『…我々は自分の人生を投影してこの人を考えるからである。
少なくともこの人の生涯には我々の人生を投影してなお掴み難
い神秘と謎があるのだ』

文／広報委員 田ノ口太悟

遠藤周作著
『イエスの生涯』新潮文庫



表紙の話

『蜘蛛の糸』の絵柄と物語が怖かったようです。子ども
たちはびくびくしながら読んでいました」

撮影者／PG 原依里